

前期の感想

先輩の話では、「プログラミングの授業は難しい」という噂をよく聞いていたので、初めの間は正直授業に抵抗がありました。また、初回の授業では進数計算を行ないましたが、高校以来だったために計算方法が思い出せず、かなり時間がかかってしまうなど、情報リテラシーとの難易度の格差に慣れるまでに時間がかかってしまいました。また、情報リテラシーの授業の後半では Ruby を用いたプログラムを作成したこともありましたが、先生のコピーに過ぎなかったため、プログラムの構造がどのようなものであるかを理解するには時間がかかりました。

最初のうちはレポート課題における先生からの採点結果で評価も芳しいものではなく、「説明が不足しています」というような旨の講評が2~3回ほど立て続けに続きました。最初はかなり落ち込みましたが、私はかなり負けず嫌いな性格のため、「次は絶対に良い評価を取ってやろう」という思う一方、「これくらい丁寧に説明しないと社会では評価にならないのか」ということも同時に思ったので、それ以降はプログラムだけでなく説明も手を抜かないということを中心に頭の中に置いて取り組むようにしました。また、できるだけ詳しく説明するためにプログラムの構成について自分で確認していくうちに、いままでよく分っていなかったプログラムの構造や、新しい発見もいくつもあったので、それ以降は試行錯誤しながらプログラムを作成するのが楽しく思えるようになりました。また、私は週末に公務員講座など外せない用事が立て続けにあるため、比較的早めにレポートを提出する必要があるのですが、そのため同じクラスの友達や他のクラスの人などからアドバイスを求められることがあり、そこでも理解が深めることができたので、なかなか忙しい前期でしたが、今にして思えば説明を工夫したり、人に教えたりすることで、結果的に自分の理解の助けになったのでかなり充実した内容の授業だったのではないかと思います。

これからはチームによるプログラムの作成があり、しかもチームのリーダーになってしまったため、責任は重大ですが、これまで学んだことを生かして、より良いプログラムを作成し、魅力的なプレゼンテーションを行ないたいと思いました。